

	コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	127	芭蕉翁記念館・偲翁舎・養虫庵等管理運営経費	会計	01	一般会計
			款	02	総務費
			項	01	総務管理費
			目	08	芭蕉顕彰費
基本 施策	35	文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	134	芭蕉翁記念館・偲翁舎・養虫庵等管理運営経費
			細々目	51	芭蕉翁記念館・偲翁舎・養虫庵等管理運営経費
行革大綱の重点事項番号					
担当部課	コード	11300	担当者 氏 名	福島 礼子	連絡先 22 - 9621 (内線) 2115
	名 称	企画総務部 企画課			

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	芭蕉翁記念館、偲翁舎、養虫庵等を利用する市民及び観光客				※対象件数
成果(どうする)	市有文化史跡や松尾芭蕉、俳句に関する資料を市民に公開し文化活動の振興に役立てる。偲翁舎は、文化的会合に利用できる。				
根拠法令・要綱等	芭蕉翁記念館及び養虫庵条例、偲翁舎条例				
開始年度	平成	年度	関連事業		
終了年度	平成	年度			
H21 事業 内 容	「芭蕉翁の顕彰、翁ゆかりの養虫庵の保存管理、造作・研究書等の一般公開による学術の振興」という設置理念に基づいた施設・設備の保守管理及び運営を行うため、指定管理制度により芭蕉翁記念館及び養虫庵の維持管理を財団法人芭蕉翁顕彰会に、また偲翁舎及び俳聖殿の管理を社会福祉法人維雅幸育会にそれぞれ委託した。 〈施設修繕工事等〉 ・史跡養虫庵建物他改修工事				
社会情勢 の変化等					

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	指定管理
委託先	財団法人芭蕉翁顕彰会、社会福祉法人維雅幸育会
2 配置人員	芭蕉翁顕彰会9人、維雅幸育会23人
3 年間運営費	28,473 千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			目標	目標		
	芭蕉翁記念館自主事業数	回	実績	実績	7	7
	養虫庵自主事業数	回	目標	目標	3	3
			実績	実績	2	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				目標	目標		
	芭蕉翁記念館入場者数	利用満足度などを指標とすべきであるが、把握が困難なため本指標を採用	人	目標	目標	18000	18000
				実績	実績		
	養虫庵入場者数	"	人	目標	目標	8000	8000
				実績	実績		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
	直接事業費計 (A)		37,370		40,380		37,175	
	A の 財源 内訳	国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他	0	0				
		一般財源	37,370	40,380	37,175	37,175		
	事業投入人件費 (B)		0.2 人 1,440	0.2 人 1,440	0.2 人 1,440	0.2 人 1,440		
	フルコスト(A)+(B)		38,810	41,820	38,615	38,615		

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律で実施が義務付けられている事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事務事業	
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補充する事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補充・先導する事	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対称者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している。	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している。	
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない。	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響は大きい。	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	達成 予算の繰越の有無 無	
	度【予算の繰越がある場合、繰越の額別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	○
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	昭和34年建設の芭蕉翁記念館は施設の老朽化とともに芭蕉及び俳句資料が増大し手狭になっている。新しいニーズに即応した複合施設を建設する必要がある。俳聖殿への観客者を偲翁舎の活用につ結びつける検討が必要。
昨年度 の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 新芭蕉翁記念館建設に向けた事業に努めた。

今後の方向性 (Action)

評価者氏名 (担当課長)	増田 基生
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 芭蕉生誕地として、芭蕉翁を顕彰するための施設として適切な施設整備と維持管理が必要である。
現時点における課題、その他	現在の芭蕉翁記念館については、昭和34年に建設されたものであり、施設の老朽化とともに、芭蕉に関する資料及び俳句資料が増大にあり保管する場所が手狭になっている。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	平成26年度までには、新芭蕉翁記念館の建設事業が完成するように努める。